

令和元年のベースボール

梗概

武田球児（37）は偉大な「野球人」である父竜二（30）の子として球場で生まれた。

球場では果てのない試合が続いており、野球人は引退までの間、球場内から出ることが許されない。

自らも野球人となった武田だったが、父の才能を受け継ぐことなく万年ベンチ生活に甘んじていた。

そんな退屈な時間の中、武田の脳裏に今は亡き父との思い出が蘇る。

幼い武田は竜二から野球人としての生き様を教わり、「この場所で生涯を終える」と親子の約束を交わす。

父の愛情に包まれて幸せな幼年時代を過ごした武田だったが、試合中に起きた乱闘の末に竜二は命を落としてしまう。

それから幾年が経ち、球児は引退を考えるも父との約束から踏ん切りがつかないままいたずらに歳を重ねてゆく。

生まれて以来一度も試合に出ることなく、武田は今日も一日ベンチに座っている。

やがて人生の終幕を迎えるその時まで、武田の頭上にはただ膨大な無為が広がり続けるのだった。

《登場人物》

武田球児(5) (18) (37) 東方ジャイアンツ
の選手

武田竜二(24) (30) 武田の父

前園(24) (30) (43) 武田のチームメイト

武田恵里佳(25) (31) (44) 武田の母

岡野(56) 東方ジャイアンツ監督

城(49) 東方ジャイアンツコーチ

小野(14) 武田のチームメイト

リトバルスキー(30) 西部ライオンズ選手

ロナウド(62) 西部ライオンズ選手

ロナウジーニョ(58) 東方ジャイアンツ選

手

その他

○多摩球場・グラウンド（令和元年・現在）
青空が広がっている。

○同・スコアボード

チーム名の欄に「西部ライオンズ」と「東方ジャイアンツ」。

「イニング数」と「R」「E」「H」の数字が全て「99」とカンストしており、見た目には試合状況がわからない。

○同・スタンド席

大勢の観客の姿。

ウグイス嬢の声が響く。

ウグイス嬢の声「37万飛んで9051回の裏、
東方ジャイアンツの攻撃…四番ファーストジ
ーコ」

○同・東方ジャイアンツのベンチ

武田球児（37）、座っている。

武田、無表情でグラウンドを見ている。

打席には、ジークが立っている。

ジーク、打つ。

観客の歓声があがる。

武田、無表情のまま。

武田、眠るように目をつぶる。

○暗闇

脳裏に父竜二の声が響く。

竜二の声「俺たちはこの地で生まれ、ここで最期を遂げるんだ」

○同・控え室（38年前）

武田竜二（24）、緊張した様子でカメラの前に立っている。

隣に女子アナの恵里佳（25）、マイクをもって立っている。

恵里佳「東方ジャイアンツの武田竜二選手にお越しいただきました」

竜二「（帽子をとって頭を下げる）」

恵里佳「まずは先日達成した通算4000奪三

振、おめでとうございます」

竜二「ありがとうございます」

恵里佳「12才で初登板を果たしてからわずか

12年での4000奪三振は球団記録となります。

今のお気持ちは？」

竜二「はい。達成できたのはファンの皆さんの応援のおかげだと思ってます」

恵里佳「今後の目標を聞かせてください」

竜二「試合は続いていくので、少しでも少なく抑えられるように投手の役目を……」

× × ×

竜二、恵里佳に一礼し、立ち去ろうとする。

恵里佳「あの」

竜二、振り返る。

恵里佳「一つ質問していいですか？」

竜二「……？」

恵里佳「野球人には引退するまで球場から出

られないという厳しいルールがありますよね？ 野球人としての人生に後悔したことはありますか？」

竜二「…」

恵里佳「(慌てて)あ、やっぱり気にしないでください。なんか失礼なこといってしまってます…」
竜二「(笑顔で)いえ。後悔なんかないです。自分は野球人であることに誇りを持っていますから」

竜二、颯爽と去っていく。

恵里佳、竜二の背中を見つめる。

○同・グラウンド

太陽の陽射しが照りつけている。

竜二、ピッチャーマウンドに立っている。

竜二、一塁ランナーをちらりと見る。

竜二、投げる。

バッター、打つ。

ボテボテの打球が三塁へ転がっていく。

サード、捕球し、セカンドの前園(24)

へ送球する。

一塁ランナー、二塁ベースへ突っ込む。

二塁審判、セーフのポーズ。

前園、グローブを突き上げてアピールする。

前園「(抗議し)アウトだっつーの！」

二塁審判、首を振る。

東方ジャイアンツ監督の相馬、ベンチから出てくる。

○同・スコアボード

チーム名の欄に「西部ライオンズ」と「東方ジャイアンツ」。

「イニング数」と「R」「E」「H」の数字が全て「99」とカンストしている。

○同・グラウンド

相馬、ホームベース付近で主審と話し合っている。

竜二、ピッチャーマウンドから様子を見

つめている。

相馬、ベンチへ戻っていく。

相馬、手を振りあげて選手たちにベンチへの引き上げを命令する。

竜二、表情がぱっと輝く。

× × ×

夜。ナイター照明が灯っている。

マスコットガールが踊っている。

ウグイス嬢の声「ご来場の皆様へお知らせします。ただ今試合が中断しております。もうしばらくお待ちください」

○同・ロッカールーム

竜二、前園らと麻雀をしている。

前園、ビールを呷る。

前園「竜ちゃんよ。今回はいつまで続くかなあ？」

竜二「(考え込んで) リーチ」

竜二、牌を捨てる。

前園「ロン」

前園、手牌を倒す。

竜二「あ」

前園「(にやり) 前はまる一ヶ月。今回も長引けばいいんだけどなア」

○同・スタンド(翌朝)

観客、歯磨きをしている。

ウグイス嬢「ご来場の皆様へお知らせします。ただ今試合が中断しております。もうしばらく」

○同・控え室(夜)

パーティ会場と化した室内。

竜二と前園、スーツをキメている。

二人の視線の先に、オシヤレをしたマスコットガールたち。

前園、女の一人から思わせぶりな視線を浴びる。

前園、ニヤケる。

前園「(竜二へ) お先」

前園、女のもとへいく。

竜二、エスコートする前園の姿をみて微

笑む。

竜二、恵里佳の姿に気づく。

恵里佳、竜二に気づく。

二人、見つめ合い、微笑む。

○同・医務室(一年後)

赤ん坊、恵里佳の胸に抱かれて産声をあげている。

○(戻って)同・東方ジャイアンのベンチ

(現在)

声「(怒鳴る) おい！」

武田、はっと目を開ける。

目の前に監督の岡野(56)が立っている。

岡野「バカたれ！ 仲間が一生懸命プレーしているのに居眠りするやつがあるか！」

武田、重たそうに姿勢を正す。

小野（一平）を含むスタメン選手ら、颯爽とグラウンドから戻ってくる。

コーチの城（49）、ベンチ裏からやってくる。

城「みんな！ 昼飯だ！」

スタッフら、ラーメンの丼を持ってやってくる。

スタメン選手ら、ラーメンを受け取る。

武田、じっと座っている。

小野「（武田にキレル）座ってないで手伝えよ！」

武田「…」

武田、ぐっと堪えて立ち上がる。

× × ×

スタメン選手ら、ラーメンを貪っている。

武田、横目でそれを眺める。

武田、生唾を飲む。

武田、ポケットからキャラメルの箱を取り出す。

武田、キャラメルを一粒口に入れる。

城、岡野のもとへいく。

城「中継ぎを予定していた名良橋ですが、体調が思わしくないようなので二三日は休ませたほうがいいかと」

岡野「うむ。北沢はどうだ？」

城「肩のケガがまだ治りません」

岡野「(しかたなく)武田！ブルペンで投げてこい！」

武田、弱々しく立ち上がる。

○同・ベンチ裏

武田、背を丸めて歩いている。

ユニフォームの背番号は88。

その背番号と重なって…

○同・グラウンド(32年前)

武田(5)の小さな背中に88の背番号。

ベンチ前で、ユニフォーム姿の武田、竜二（30）とキャッチボールをしている。

武田「お父さん！ ほんとなの？！」

竜二「もちろんだ。背番号をもらった日からお前も立派な野球人だ」

武田、はしゃぐ。

竜二「（笑う）」

武田「早くぼく試合に出たいよ」

竜二「試合か」

武田「あと何回練習したら出られるかな？」

竜二「俺が野球人になったのも球児と同じ5歳だった。そこからうんと練習を積んで、初めてベンチ入りしたのは10の時。試合に出たのは12の時だ」

武田、指で数を数えている。

武田「（数えおえ）わかった。1年したらぼくも試合に出れるんだ」

竜二、武田のもとへいく。

竜二、しゃがみ込む。

竜二「…球児、俺と約束しよう」

竜二、武田に小指を差し出す。

武田「…？」

竜二「俺たちは野球人だ。死ぬまで野球人として生きていく。できるか？」

武田「うん」

武田、小指を差し出す。

二人、指切りげんまんをする。

武田「指切りゲンマンウソついたら針千本の
ーます。指切った！」

二人、指を離す。

竜二「(笑顔)」

と背後のベンチで、監督や選手らが何やら慌ただしく動いている。

竜二「(見て)…？」

×

×

×

ホームベース付近で、審判、マイクを持って立っている。

審判「(観客へ)29万飛んで2回の表、ワン

アウトランナー一塁の場面で東方ジャイアンツから判定に抗議がありました。協議した結果、二塁ベースへの送球が早かったとみなし、ツーアウトランナーなしの状態から試合を再開します」

× × ×

前園（30）ら内野手、竜二のいるピッチャーマウンドに集まっている。

前園「長い休暇だったなあ」

竜二「俺の息子はもうい才だ」

前園「：竜ちゃん、腕はナマってないだろうな」

竜二「（笑う）」

× × ×

竜二、投げる。

バッター、三振。

審判「ストライク！　バッターアウト！」

○同・スコアボード

　　コンストしたイニングに「0」の得点が並んでいる。

○同・ロッカールーム（数日後・深夜）

　　竜二、寝袋で寝ている。

　　スタッフ、駆け込んでくる。

　　スタッフ「乱闘だ！」

　　竜二、飛び起きる。

○同・グラウンド

　　騒然としたグラウンド内。

　　選手たちが揉み合っている。

　　その真ん中で西部ライオンズのロナウド

（62）と東方ジャイアンツのロナウジーニョ

（58）が息巻いている。

　　ロナウド「（ポルトガル語で）お前！　わざと

当てやがって！」

ロナウジーニョ「（ポルトガル語で）文句があるならやってやるぞ！」

ロナウド、ロナウジーニョに飛びかかる。

○同・スタンド

観客ら、俄然盛り上がる。

観客「おう！ やれ！ やっちまえ！」

○印刷機で刷られるスポーツ新聞

以下の見出しが踊る。

「真夜中の乱闘で負傷者」

殴り合うロナウドとロナウジーニョの写

真。

「乱闘が収まらず一週間。今日も負傷者」

相手ベンチ内で暴れる西部ライオンズ選

手の写真。

「両チーム共に戦力補強を発表」

○多摩球場・グラウンド（二週間後）

両チームの助っ人外国人たち、ベンチ前

で対峙している。

西部ライオンズのリトバルスキー（30）をはじめ、いずれも屈強な外国人たちがずらりと並んでいる。

×

×

×

夜。リトバルスキーら西部ライオンズの選手、相手ベンチへボールやバットを投げつけている。

○同・ロッカー室

ボールがぶつけられる音が響く。

武田、怯えている。

竜二、武田を抱きしめ、

竜二「大丈夫だ」

と、ドアをガンガン叩きつける音が響く。

リトバルスキーの声「（ドイツ語で叫ぶ）ロナウドの敵討ちだ！」

ドア、壊されていく。

竜二「球児！ 隠れてろ！」

武田、ロッカーの下のスペースに身を隠す。

ドア、開く。

リトバルスキー、金属バッド片手に乱入してくる。

竜二、バットを持って立ち向かう。

リトバルスキー、竜二めがけてバットを振り下ろす。

竜二「！！！」

○印刷機で刷られるスポーツ新聞

以下の見出しが踊る。

「エースの死をもって乱闘終結」

○同・医務室

竜二、安らかな顔でベッドに横たわっている。

恵里佳(31)、ベッドにしがみついてむせび泣いている。

前園、呆然と立っている。

前園「竜ちゃん：早すぎるよ…」

武田、息のない竜二をじっと見つめている。

画面が暗転する。

○暗転画面

以下のテロップが流れる。

「武田竜二（享年 30）

東方ジャイアンツ 投手

通算 25 年

登板	1208	先発	0	完投	0	完封	0	無四球	
0	勝利	0	敗戦	0	セーブ	0	ホールド	0	
勝率	0.00	打者	13963	投球回	6662.2				
被安打	6038	被本塁打	608	与四球	2288				
敬遠	54	与死球	496	奪三振	4726	暴投			
99	ボーク	16	失点	2804	自責点	2400			
防御率	3.24	WHIP	1.25						

○（戻って）多摩球場・ブルペン（現在）

投手ら、レーンで投球練習をしている。

捕手ら、投手の球を受けている。

武田、やってくる。

武田、空いているレーンのマウンドに立

っ。

捕手がいないまま、武田、投げる。

ボールが壁に当たって転がる。

武田、ボールを取りに行く。

武田、ボールを拾う。

武田、マウンドに戻る。

武田、投げる。

ボールが壁に当たって転がる。

武田、ボールを取りに行く。

武田、ボールを拾う。

武田、マウンドに戻る。

武田、投げる。

ボールが壁に当たって転がる。

武田、ボールを取りに行く。

武田、ボールを拾おうとする。

捕手「邪魔だ！（と武田にキレる）」

武田「…」

武田、ボールを拾う。

武田、マウンドに戻る。

武田、ポケットからキャラメルの箱を取り出す。

武田、キャラメルを一粒食べようとする。

投手「ブルペンで食うな！（と武田にキレる）」

武田「…」

武田、キャラメルをポケットにしまう。

武田、構える。

武田、ボールを投げるフリをする。

武田、構える。

武田、ボールを投げるフリをする。

武田、構える。

コーチの城、やってくる。

城「武田！」

武田、城のほうを振り向く。

○同・ブルペン（19年前）

武田（18）、投球練習をしている。

監督とコーチら、別のレーンの投手の練習を見ている。

コーチ「(捕手へ)外角低めに投げさせてみる」

捕手、ミットを構える。

投手、投げる。

ボールがミットにピシヤリと収まる。

監督「ふむ」

監督とコーチら、別のレーンに移動する。

レーンにいる投手、投げる。

投手、もう一度投げる。

コーチ「(見て)フォームがゆったりすぎる！

もっとタメをなくしたほうがいい！」

投手、頷く。

監督とコーチら、武田のレーンに移動する。

武田、投げる。

武田、もう一度投げる。

監督とコーチら、何もいわずに去る。

武田「…」

○同・東方ジャイアンツのベンチ

武田、落ち込んでいる。

スタンドから歓声があがる。

武田、グラウンドを見る。

○同・グラウンド

前園（43）、マスコットガールから花束を渡される。

○同・スコアボード

スクリーンに以下の文字。

「前園選手 引退

今までありがとう！」

○同・グラウンド

前園、観客に向かって手を挙げる。

○同・東方ジャイアンツのベンチ（夜）

武田、座っている。

前園、武田の隣に座る。

前園「よう」

武田「(前園へ頭をさげる)」

前園「(試合を眺めつつ) …球児。俺ア少し早めの引退だ」

武田「はい…」

前園「コーチとしてここにとどまるつもりはない。外の世界で商売を始めようと思ってる」

武田「…」

前園「ラーメン屋をやるんだ」

武田「ラーメン屋？」

前園「そうよ。ここの飯はマズいからな。俺の特製ラーメンをここに売り込んで一儲けしようって算段よ(と笑う)」

武田「(笑う)」

前園、真剣な顔になって、

前園「球児」

武田「…？」

前園「俺についてこないか？」

武田「(はっとして) え？」

前園、立ち上がる。

前園「野球だけが人生のすべてじゃない。世の中にはきつと可能性がいくらだって転がってるんだ」

武田「…」

前園「それに、球児はなんたって竜ちゃんの息子だからな。俺の相棒として力になってくれるはずだ」

武田「…」

○同・素振り部屋（翌日）

マスコットガールたちがティータイムをしている。

恵里佳（44）、素振り用の大鏡の前に座って櫛で髪の毛をといでいる。

入口に立つ武田の姿が大鏡に映る。

恵里佳「（気づいて）…」

○同・控え室

部屋の片隅に置かれたテーブルに竜二の遺影。

恵里佳、線香をあげている。

武田、後ろで立っている。

恵里佳「どう？ 野球のほうは？」

武田「うん：まあ何とかやってるよ」

恵里佳、手を合わせる。

恵里佳、振り返り、武田を見る。

恵里佳「何、さっきから浮かない顔して」

武田「：うん（とうつむく）」

恵里佳「何なのよ？」

武田「（ぼそりと）：引退したらさ、ラーメン屋やるんだって。前園さん」

恵里佳「：」

武田「それで：一緒にこないかって」

恵里佳「：そう」

武田「：」

恵里佳「あんたは何ていったの？ まさかついていくつもりじゃないでしょ」

武田「：まだ返事してないけど：ここにいても、俺、たぶん」

恵里佳「（遮って）ラーメン屋なんて失敗する

に決まってるじゃない。あんたたちは世間知らずなのよ。だってそうでしょ？ 野球しかしてこなかったんだから。外の世界はあんたが思ってるようなそんな甘い世界じゃない。それはお母さんが一番よくわかってる」

武田「…」

恵里佳「野球辞めてラーメン屋になるなんていってみなさいよ。あの人が生きてたらぶん殴られるよ」

武田「…」

恵里佳「前園さんに何いわれたかしらないけど、このまま野球人を続けてればいいの。それがあんたにとって一番いい選択なの」

武田「…」

○同・関係者専用駐車場（夜）

バスがとまっている。

前園、荷物を手にバスへと乗り込む。

武田、寂しげに見送る。

○（戻って）同・ブルペン（現在）

武田、城のもとへいく。

城「新人に投げさせることにした。ベンチに戻れ」

武田「…」

○同・グラウンド

リリースカーが出てくる。

「10歳くらいの少年が乗っている。」

ウグイス嬢「選手の交代をお知らせします」

○同・ベンチ

武田、座る。

武田、無表情でグラウンドを見つめる。

武田のそばに空になったラーメンの丼。

武田、丼を見る。

メンマが一つ張り付いている。

武田「…」

武田、メンマをつまむ。

武田、メンマを口に入れる。

武田、ぐっと噛みしめる。

ウグイス嬢の声「37万飛んで9055回の表、西部ライオンズの攻撃。六番センター…」

武田、じっと目をつぶる。

○同・グラウンド（32年前）

ベンチ前で、幼い武田、竜二とキャッチボールをしている。

恵里佳、楽しみに眺めている。

恵里佳「球児、上手じゃない！」

武田「（得意げ）」

武田、ボールを投げる。

竜二「（捕球して）いいぞ！ 球児！」

恵里佳の声「見て！」

恵里佳、空を指さしている。

恵里佳「おっきな雲！」

武田、空を見あげる。

武田「ほんとだ！」

竜二、武田のもとへいく。

竜二、一緒に空を見あげる。

透き通るような青空に巨大な雲が浮かんでいる。

空に竜二の声が響く。

竜二の声「球児。俺たちは野球人だ」

武田の声「うん！」

竜二の声「俺たちはこの地で生まれ、ここで最期を遂げるんだ」

画面が暗転する。

○暗転画面

以下のテロップが流れる。

「武田球児（享年 80）」

東方ジャイアンツ 投手

通算 75 年

登板 〇 先発 〇 完投 〇 完封 〇 無四球 〇
勝利 〇 敗戦 〇 セーブ 〇 ホールド 〇 勝
率 0.00 打者 〇 投球回 〇 被安打 〇 被本
塁打 〇 与四球 〇 敬遠 〇 与死球 〇 奪
三振 〇 暴投 〇 ボーク 〇 失点 〇 自責
点 〇 防御率 0.00 WHIP 0.00」

(
お
わ
り
)